

第6回 京都現代経済学ゼミナール募集要項

申し込みの手続きは、簡単です。
 「申込書」に必要事項を記入し、受講料をそえて申し込んでください。
 募集の定員は、60名です。(定員になり次第〆切ります)
 講義時間は、午後1時～5時(休憩も含まれます)
 受講料は、13,500円です。(税込み)
 『京都学習会館』(上京区堀川丸太町西一筋目上ル)です。
 電話(075)841-8141 FAX(075)821-3665

自転車・バイク・自動車の駐車場はありません。二条城市営駐車場へお願いします。(自転車は会館の周りは住宅街ですので止めることは出来ません)

地下鉄丸太町駅・二条城前駅から『京都学習会館』まで歩いて10分以内です。



Coordinator 芦田 文夫・立命館大学名誉教授

Kyoto Contemporary Economics

Seminar vol.6



Coordinator 芦田 文夫・立命館大学名誉教授
 第6回 京都現代経済学ゼミナール 募集要項

期間 08年6月8日～10月12日(日曜日)
 ……第2日曜日全5講義

時間 午後1時～5時
 会場 京都学習会館(上京区堀川丸太町西一筋目上ル)
 講師 横井和彦(同志社大学准教授) 大西広(京都大学教授)
 田中広(立命館大学教授) 藤岡惇(立命館大学教授)
 芦田文夫(立命館大学名誉教授)

受講料 13,500円(消費税込み)
 定員 60名

京都労働者学習協議会
 〒602-8147
 京都市上京区堀川丸太町西一筋目上ル
 京都学習会館5F内
 電話(075)841-8141
 FAX(075)821-3665

| 第6回 京都現代経済学ゼミナール 申込み日時 | | | 年 | 月 | 日 |
|------------------------|--|-----------|-------|---|----|
| フリガナ | | | 性別 | | 年齢 |
| 氏名: | | | 男・女 | | 才 |
| 現住所: | | | | | |
| 職場・学園: | | | | | |
| 労働組合名: | | (全国単産名:) | | | |
| 電話: 職場() | | | 自宅() | | |

Coordinator 芦田 文夫・立命館大学名誉教授

Kyoto Contemporary Economics Seminar vol.6 世界の構造変化をとらえる

芦田文夫先生からのよびかけ

世界が面白いほど変わりつつある……なぜ、いま、一挙にこのような動きが噴き出てきたのでしょうか。多国籍企業が地球的規模で押し進めてきた「市場経済化」の波が、あらゆるところで堆積させてきた矛盾の大きさと深さを分析してみなければなりません。

いま、世界が面白いほど変わりつつある、と言われていています。地球上のあらゆるところから、人間の生存と生命、生活と労働、人間の尊厳の根本にかかわる問題にかかわって、「オレは人間だ」「人間らしく生きさせる」という叫びがあげられようとしています。戦争と平和の問題、貧困と社会的格差の問題、南北格差と途上国の自主独立問題、地球環境問題などをめぐってです。それは、日本でも青年労働者の非正規雇用の問題や後期高齢者医療の問題で、いま人間としての生存と尊厳のギリギリのところ問われようとしているのと、共通したものをもっています。

なぜ、いま、一挙にこのような動きが噴き出てきたのでしょうか。多国籍企業が地球的規模で押し進めてきた「市場経済化」の波が、あらゆるところで堆積させてきた矛盾の大きさと深さを分析してみなければなりません。前世紀末に、米ソの二大覇権の構造が崩壊した世界史的意味も考えていかなければなりません。

「現代経済学ゼミナール」では、世界を次のような4つのグループに分けて、経済をベースに置きながら政治や社会とのつながりまで、それぞれの構造的変化を論じていく集中講座を組んでみました。いずれの講師も、いま第一線で活躍されている気鋭の専門的研究者ばかりです。まずは変化を実証的にきちんと押さえる、そしてそれぞれの留学や調査にもとづく実感をもまじえて、理論的に掘りさげていく論点を講義と質疑・討論で深めていきたいと考えています。

資本主義が高度に発達した国々（9億人、地球全人口の7分の1）アメリカ中心の「一致団結」は過去の話となりました。世界の軍事同盟が解体・機能不全におちいり、かわって自主的な平和の共同体が広がっています。アメリカのイラク戦争と大統領選を焦点に、内外の構造変化を追跡します。

社会主義をめざす国々（中国・ベトナム・キューバ、14億人）“市場経済を通じて社会主義へ”が目指されています。中国の影響力が次第に大きくなり、世界の力関係が大変動をむかえる時期が訪れようとしています。格差問題や環境問題などの独自の解決の方向性を検討します。

その他のアジア・アフリカ・ラテンアメリカの国々（35億人、地球人口62億の半分以上）ほとんどが植民地・従属国から独立をはたしましたが、資本主義の道に失望し、自主独立、非同盟、世界平和という流れが急速に強まり、それが社会変革の流れと合流しつつあるのが特徴です。もっとも目覚しいのが南アメリカで、左派政権が続々と生まれ、人口の4分の3以上を占めるようになりました。その世界史的意味を論究します。

体制が崩壊した旧ソ連・東欧の国々（4億数千万人）当初西側で宣伝された「資本主義万歳」論は通用しませんでした。「社会的市場経済」のEUとの関わり、東欧の現状と展望を考察します。

最後に、これらの新しい動きを、資本主義の歴史の流れの中で18世紀後半の資本主義の誕生、19世紀の矛盾の噴出（貧困と労働苦、失業、恐慌）、19世紀半ばの「科学的社会主義」の確立、資本主義が唯一の体制ではなくなった20世紀、いま21世紀の世界の大きな変化へ位置づけてみて、人類の自由と平等の社会に向っての歩みを考えてみることにしたいと思います。

みなさんの積極的参加をよびかけます。

| 第6回 京都現代経済学ゼミナール | | |
|-----------------------|-------------------------------|--------------------|
| 第1講義 6月08日 日曜日 | 経済大国中国社会の 実像と社会主義への道 | 横井 和彦 同志社大学准教授 |
| 第2講義 7月13日 日曜日 | 自立する中南米の 世界史的先進性とはなにか | 大西 広 京都大学教授 |
| 第3講義 8月10日 日曜日 | EU・東欧諸国の 挑戦はどこまで来たか | 田中 宏 立命館大学教授 |
| 第4講義 9月14日 日曜日 | “ブッシュの8年”はアメリカ をどこに導いているのか | 藤岡 惇 立命館大学教授 |
| 第5講義 10月12日 日曜日 | 世界の構造変化をどうみるか | 芦田 文夫 立命館大学名誉教授 |